

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(中学校用)

都道府県名	茨城県
-------	-----

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	笠間市立笠間中学校					
学年	1年	2年	3年	特殊学級	計	教員数
学級数	5	4	5	1	15	31
生徒数	163	146	200	3	512	

研究の概要

1. 研究主題

生徒の創意・工夫を生かし、一人一人が意欲的に学び合う授業を目指して
～確かな学力の定着を図るための多様な指導方法の工夫・改善～

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

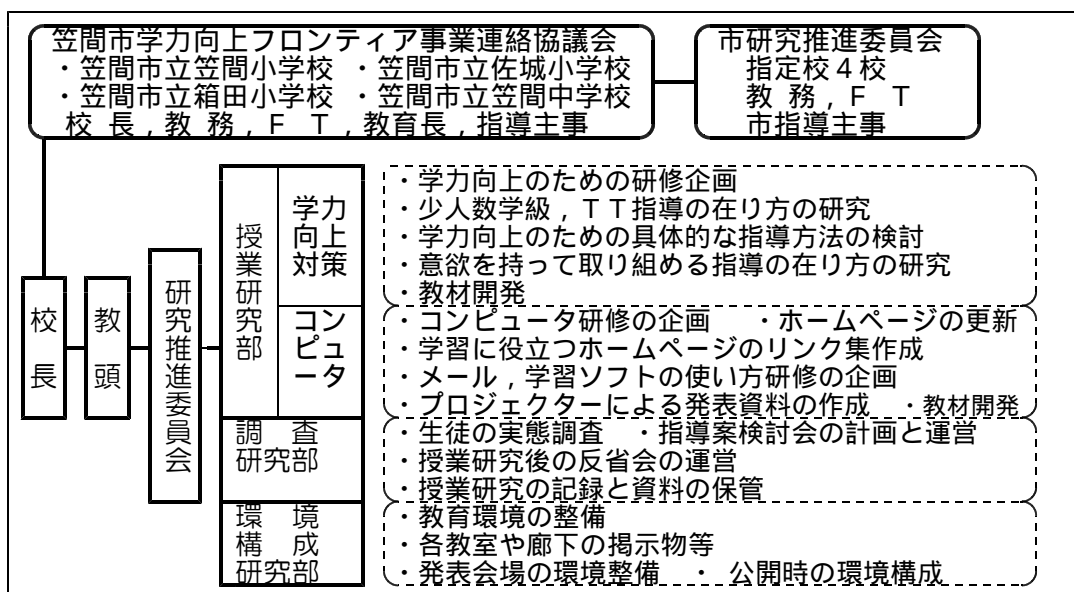
- ・習熟度別少人数指導2年生, T・T指導1, 3年生・数学
T・T指導体制で少人数指導や習熟度指導が可能であるため。
生徒の理解や習熟度に差が出やすい教科であるため。
- ・習熟度別少人数指導2年生, T・T指導1, 3年生・英語
T・T指導体制で少人数指導や習熟度指導が可能であるため。

(2) 年次ごとの計画

平成15年度	<p>テーマ 確かな学力の定着を図るための多様な指導方法の工夫・改善</p> <p>研究の見通し(仮説) 学習指導法の工夫・改善を図り「わかる授業」や「個に応じた指導」を展開すれば、一人一人が生き生きと取り組み、基礎・基本の定着や学力の向上を図ることができるだろう。</p> <p>研究の内容・方法 ・効果的な習熟度別少人数指導やT・T指導を工夫する。 ・学習効果を高める教材の開発やコンピュータ等教育機器の活用を図る。 ・学習の仕方の習得と基礎的・基本的な内容の定着を図る。 ・目標達成状況から、学習の補充・発展を図る。 ・好ましい人間関係を育成するとともに、学習環境条件等の整備を図る。</p>
--------	---

平成16年度	<p>テーマ 確かな学力の定着を図るための多様な指導方法の工夫・改善</p> <p>研究の見通し(仮説) 学習指導法の工夫・改善を図り「わかる授業」や「個に応じた指導」を展開すれば、一人一人が生き生きと取り組み、基礎・基本の定着や学力の向上を図ることができるだろう。</p> <p>研究の内容・方法 ・効果的な習熟度別少人数指導やT・T指導を工夫する。 ・学習効果を高める教材の開発やコンピュータ等教育機器の活用を図る。 ・学習の仕方の習得と基礎的・基本的な内容の定着を図る。 ・補充的・発展的学習教材資料の作成と活用を図る。 ・指導に生かせる評価の工夫と改善を図る。 ・好ましい人間関係を育成するとともに、学習環境条件等の整備を図る。</p>
--------	--

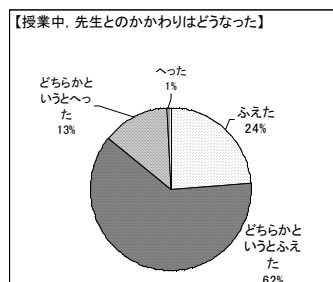
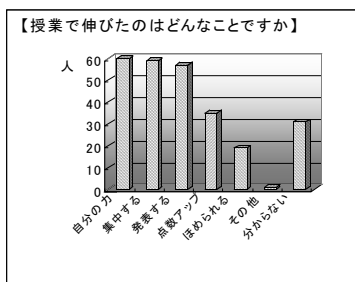
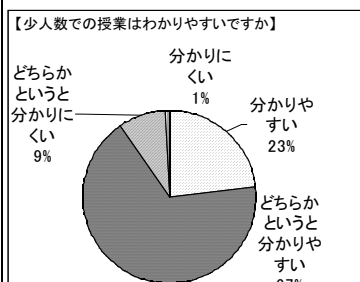
(3) 研究推進体制



平成 15 年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

- (1) 全校での取り組み
 朝の学習時間の活用 ... 各学年で工夫
 ・週ごとに五教科のドリル学習をすすめ, 週末に小テストを実施
 ・読書タイムの位置づけ (毎週金曜日, 読書週間)
 年間指導計画の見直し ... 各教科で実施
 ・各単元構成の見直し
 ・指導形態 (一斉, TT, 少人数, 課題別, 習熟度別) の再検討
 ・評価規準 (時・場・方法) や補助簿等の再検討
 教科部員会の実施
 ・時間割に週 1 時間の部員会を位置づけた
- (2) 授業研究部の取り組み
数学科【少人数指導】
 第 2 学年を対象に, 全単元全時間で実施。1 学級をアドバンスコース (発展的なコース) とベーシック (基礎的なコース) の 2 コースに分けた。それぞれのコースを 1 人の教師が担当する形をとり, 4 学級を 3 人の教師で対応。
英語科
 週 3 時間の授業のうち, 1, 3 年生では JTE 二人による TT を実施, 2 年生では週 3 時間すべてを 4 月には JTE 二人による TT を, 5 月からは習熟度別少人数指導を実施している。コースは教科書の学習をさらに発展させて, 自分なりに使いこなす活動を多く取り入れる「実践コース」と, 教科書を中心に基礎理解に重点を置く「基礎・基本コース」を設定した。
 ALT との TT は月に 10 日程度訪問日があるので, 月ごとに計画を立てて全学年で実施してきた。
- (3) 成果
 多様な学習形態 (習熟度別少人数指導や TT 指導) を取り入れたことによって, 個に応じた指導ができ, 基礎・基本が図られた。
 習熟度別少人数授業での学習の取り組みについての問いに対する回答



- (12月実施 2年生 134人調べ・複数回答)
- ・授業の中での質問が増え、進んで学習したり活動したりする生徒が多くなった。
 - ・課題を最後まであきらめずに解こうとする姿勢が見られるようになった。
 - ・積極的にコミュニケーション活動に参加しようとする意識が高まってきた。
- 実力テストの実施から
少人数指導や習熟度別指導を実施した2学年で、実力標準テストを実施した。
分析方法
全国平均と本校の平均を比較することによって学力の向上を見る。

2. 今後の課題

少人数指導とTTを組み合わせるなどの弾力的な学習形態を考慮した、単元計画を作成し直していきたい。
少人数指導やTT指導の組み合わせを考え、いろいろな授業形態を工夫したい。
教科の部員間及び教科間の交流をして、教材の開発を更にすすめたい。
基礎・基本の定着のための、「これは覚えよう」「これはできるようにしよう」の手引きの作成をして、達成目標を明確にしていきたい。
興味のわく物的環境の整備と人的環境についても研究を深めたい。
保護者への啓発の工夫

学力把握のための学校としての取組

- 学力診断テスト(4月) 全学年5教科で実施
- ・テスト実施によって、観点別に分析をして、今後の指導に生かす。
- 単元終了テストの実施 (数学科, 英語科)
- ・習熟度別学習の理解の状況や学習定着の度合いを見ると共に、次回のコース分けに役立てる。
- 実力テスト (1月) 全学年5教科で実施
- ・テスト実施によって、観点別に分析をして、今後の指導に生かす。

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

笠間市学力向上フロンティアスクール研究発表会の実施
日時：平成15年10月30日(金) 場所：笠間市立笠間中学校
対象：笠間市内小中学校及び県内小中学校へ案内(55名参加)

笠間市教育会で作成の研究紀要への原稿出筆及び発表会へ参加
日時：平成16年2月17日(火) 場所：笠間市中央公民館
対象：笠間市教育研究会会員 研究発表会において文書発表

学校だよりで保護者に説明(随時)

ホームページでの公開(平成15年度・16年度)
笠間中学校ホームページ <http://www.kasama-kasama-j.ed.jp>

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

【新規校・継続校】	15年度からの新規校	14年度からの継続校		
【学校規模】	3学級以下 7～9学級 13～15学級	4～6学級 10～12学級 16学級以上		
【指導体制】	少人数指導 その他	T・Tによる指導		
【研究教科】	国語 外国語 保健体育	社会 音楽 その他	数学 美術	理科 技術・家庭
【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】		有	無	